

総務文教厚生常任委員会記録

- 1 日 時 令和7年12月23日(木) 午前11時48分～午後0時11分
- 2 場 所 全員協議会室
- 3 出席委員 (委員長) 坂ノ井 徳
(副委員長) 岡本 泰行
(委員) 篠脇 丈毅 田中 晴美 長友 光子 平井 保彦
山本 達也
- 4 欠席委員 なし
- 5 委員外議員 岡村 茂樹 中川 隆志 平岡 実千男 藤沢 宏司
- 6 執行部参与
(総合政策部) 部長 藤村 英明
政策企画課 課長 三浦 賢太郎
(健康福祉部) 部長(社会福祉事務所長) 益田 昌明
こどもサポート課 課長 岩原 幸枝
- 7 議会事務局 次長 寺岡 富美 書記(主査) 坪野 芳美 松本 航
- 8 協議事項

1 【付託議案等】

- (1) 議案第83号 令和7年度柳井市一般会計補正予算(第5号)

[政策企画課・こどもサポート課]

(開会 午前11時48分)

委員長(坂ノ井 徳) 皆さんお揃いでございますので、委員会の開会に先立ちまして、互礼を行いたいと思います。御起立をお願いします。

【 「互礼」 「お願いします」 「御着席願います」 】

委員長(坂ノ井 徳) ただ今から総務文教厚生常任委員会を開会いたします。各委員の皆様、大変お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の会議に4名の委員外議員さんより、出席したい旨の申し出がございましたので、これを許可したいと思います。

この度の協議事項につきましては、本会議で本委員会に付託となりました議案1件でございます。発言の際には、挙手の上、マイクのボタンを押し、マイクに向かって、発言してください。執行部の方は、ハンドマイクを使ってください。また、私語は控えていただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、議案第83号、柳井市一般会計補正予算(第5号)について、執行部から補足説明がございましたらお願いします。

政策企画課長(三浦 賢太郎) 補正予算について補足説明をいたします。補正予算書8頁の企画費をお願いします。先般、国の令和7年度補正予算により本市に配分された物価高騰対応重点

支援地方創生臨時交付金、いわゆる重点支援地方交付金を主な財源として、買物券事業を実施するための所要の経費を計上しております。この買物券事業では、重点支援地方交付金の主旨である食料品価格などの物価高騰の影響を受けた市民の生活を支援するとともに、市内店舗でのみで使える買物券とすることで、地域経済の活性化も視野に入れております。実施方法としては昨年度、令和7年2月に実施した買物券事業と同様の手法を考えております。今回は、市民1人あたり1万3,000円分のやない暮らし応援買物券を、直接御家庭に配布します。市民の皆さんは、あらかじめ取扱店として登録されているお店で、その買物券を使って買物ができるといものがございます。1,000円分の買物券を13枚、13,000円分、内訳として共通券を8枚、8,000円分、小規模店専用券を5枚、5,000円分とする予定です。また、令和8年2月1日現在の市民を対象に、3月上旬の発送を予定しており、使用期間としては6月末までとする予定です。買物券取扱店舗の募集にあたっては、本補正予算成立後、年明けには広報やホームページ等に募集記事を掲載するとともに、できるだけ多くの地元企業に参加いただけるよう柳井商工会議所にも御協力いただく予定でございます。なお、本交付金事業につきまして国からは、地域の実情に応じて、可能な限り年内での予算化について検討を進めるよう通知があり、本市としても早期の事業実施に向け、本予算案を提出させていただいてるところです。それでは、予算の内訳について御説明いたします。まず、需用費ですが、用紙やプリンタトナーなどの事務用品である消耗品費と、店舗が換金するときの換金請求書の印刷や広報やないに掲載しますので、その印刷製本費となっています。役務費の通信運搬費は、買物券を市民全員にお配りしますので、その郵送費や買物券取扱店舗の募集等に係る郵送費でございます。委託料のやない暮らし応援買物券換金業務委託料は、買物券取扱店で買物した場合の買物券の換金業務に係る費用と、買物券の換金原資を計上しております。次に、やない暮らし応援買物券作製等業務委託料は、買物券のデザイン・作製業務、配布する際の説明文書や店舗一覧表、封筒の印刷、そして、買物券や印刷物を封筒の中に入れる作業、のり付けなどの封入封緘作業について、一連の作業として委託することとしており、その予算を計上しております。この買物券に係る事業費については、さきほど申し上げましたとおり、7割になりますが、歳入の国庫補助金、総務費国庫補助金の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を充当して実施することとしております。また、5割に戻りますが、繰越明許費補正の追加に、やない暮らし応援買物券事業とありますが、こちらは使用期間を来年6月末と予定しておりますので、年度内に支出が完了しない見込みのものについては、繰越をして対応するよう計上しております。以上です。

こどもサポート課長（岩原 幸枝） それでは、補正予算書の9割をお願いいたします。3款民生費、2項児童福祉費、7目物価高対応子育て応援手当事業費でございます。予算の説明に入ります前に、タブレットのファイル番号01、こどもサポート課の資料により概要を説明させていただきます。本事業は、物価高の影響が長期化し、その影響が様々な人々に及ぶ中、特に、その影響を強く受けている子育て世帯を力強く支援するため、物価高対応子育て応援手当を支給するものです。支給対象者は、児童手当支給対象児童を養育している父母等でございます。0歳から高校3年生までの子ども1人当たり2万円を支給するものがございます。事務費を含め全額国庫負担で実施される事業でございます。支給方法につきましては、令和7年9月分等

の児童手当受給者に対して、プッシュ型で児童手当の登録口座に支給するものとします。また、公務員や、令和8年3月31日までに生まれた新生児につきましては、原則として、申請により支給するものとします。それでは、補正予算書に戻っていただきまして、9頁をお願いします。3節、職員手当等、10節、需用費、11節役務費では、今回必要となる事務諸経費を計上しております。12節委託料につきましては、今回の給付に必要な電算システム改修委託料を計上しております。18節負担金補助及び交付金につきましては、支給対象となる子どもを約3,800人と見込みまして、7,600万円を計上しております。プッシュ型で行う給付につきましては、2月下旬からの交付を目指して準備を進めてまいります。最後に5頁を御覧ください。本事業は申請が必要な新生児と公務員分について、次年度に繰越す予定としておりますので、記載の額を上限額とした繰越明許費を設定しております。以上でございます。

委員長（坂ノ井 徳） ただ今の説明を受けまして、各委員さんのほうから御質疑、御意見等がございましたらお願いします。

委員（篠脇 丈毅） システム改修委託料が意外に高いのは、新生児とか、新たに対象になった児童を養育している家庭の特定が、今までできてないのでしょうか。

こどもサポート課長（岩原 幸枝） 公務員の方や新生児等につきましては、これから申請により受け付けてまいりますので、そちらのほうを管理するシステムということになってまいります。また現在のシステムに加えて、これから作成するシステムにつきましても、間違いなく交付ができるように確認をするために使わせていただきたいと思いますと思っております。

委員（篠脇 丈毅） ちょっと理解できないです。僕が理解できないのはなぜかという、今まで、児童手当のデータベースがありますよね。その中から、子どもを扶養する、家族というか、それを特定するのはそんなに難しいことじゃないと思うんだけど、新しい要素をシステムに入れないといけないのなら、それは改修費用がかかるんですけど、システムそのものは、既にあるデータベースを利用する方法ではないのでしょうか。

こどもサポート課長（岩原 幸枝） 基本的にはそのような形になってまいりますけれども、確認をするために行ってまいります。

委員（篠脇 丈毅） もう、よろしいです。

委員長（坂ノ井 徳） ほかにございませんか。

委員（長友 光子） この計画を立てられる前に柳井市の課題として、物価高支援に対してどういう施策が必要かということは検討をされましたでしょうか。それが聞きたい。

政策企画課長（三浦 賢太郎） このたびの交付金は物価高騰の影響を受ける生活者等の支援というのが目的となっておりまして、国の推奨メニューを参考にしながら、可能な限り早期に実施することが求められています。その中で私どもとしましては、まずは市民全員に公平な支援が行われるというところ、それから、事業の早期実施の観点、そして今回の交付金においては新たに食料品の物価高騰対策という部分もありまして、その加算のところもございましたので、食料品に御活用頂けること。最後に、地元経済団体、商工会議所からの要請などもありましたので、市内の消費喚起の観点、こういったところから、事業を実施させていただこうと検討してまいりました。

委員長（坂ノ井 徳） よろしいですか。ほかにございませんか。

【 「なし」と呼ぶ者あり 】

委員長（坂ノ井 徳） ないようでしたら、委員外議員さんのほうから御質疑はございませんか。

委員外議員（中川 隆志） 買物券については地元経済の活性化ということを言われたんですけど、1人1万3,000円の買物券を配って、どれぐらい地方経済活性化するとお考えですか。どのような活性化があるのでしょうか。

政策企画課長（三浦 賢太郎） 事業効果というところだと思いますけれども、市民の皆様方に、買物券の額面ほど使っていただくようになりますので、その分の経済効果というのは、また、確実にあるのではと考えて、柳井の店舗を使っていただくということで、地元の消費喚起にもつながっているのではと考えております。

委員外議員（中川 隆志） 政府の出してる補正予算の地方重点支援地方交付税の追加というところを見ると、事業者支援のほうには中小企業、小規模事業者の賃上げ環境整備と言われたんですよ。例えば1万3,000円を配ったら、柳井市の中小企業に従事される方の賃上げができるわけですか。できるか、できないかは別にして、どれぐらい賃上げ効果があるとお考えですか。

総合政策部長（藤村 英明） 国が示します推奨メニューの中にそういったものがあるのは承知しておりますけれども、今回の買物券の事業をやることの目的の1つは、まずは、生活者を支援するという意味、でもう1つは市内の消費喚起をするという意味がございます。国が示します推奨メニューにはそういう記述はありますけれども、我々が市内の消費を喚起することですので、その対象事業所の従業員の方々の賃上げがどこまでできるかということまで見込んで計画したのではなくて、あくまでも消費者、生活者の支援をする。そして、市内での消費を喚起して、経済の活性化を図る、そういう目的で事業を展開する、そういうことでございます。

委員外議員（中川 隆志） 4億円近く使うんで、総予算の2%ぐらいなんですかね。それだけ使って、ただお金を配るだけなんですか。実際、それだけ2%もお金使うのであれば、このお金使った結果、どういう成果があるかということを検討した上で出していないと、最終的な評価は難しいんじゃないですか。前もって、こういう活性化ができるんだから、これだけのお金を使うということにしないと、例えば、今度、決算のときにまた私聞きますけれど、どういう成果をどういう形で決めたんですか、どういうふうにしたと。数値目標がきちんとあるんだしたら、その数値を示してもらって、その結果として、やっぱり効果があったというふうに決めないと、ただ、あると思いますという形で評価するのでは、それはちょっと予算規模からいって、予算の大小には関係ないかもしれないけれど、評価をするということを前提にしていかないと、お金を配るのが目的ではちょっと違うんじゃないかと思えますけれど。

総合政策部長（藤村 英明） どういう成果を求めるかという御質問でございますけれども、やはり何か具体的に指標を、今、持ち合わせ合わせているわけではございませんけれども、やはりこの成果をはかる一つの指標とすれば、それは、このお買物券の配布率であり、あるいは換金率であろうかと思えます。この物価高騰の中で、経済的負担の軽減を図れるということでございますので、まずはそこに今注力すべきかなというふうに思っておりますし、市内の消費喚起

という意味では、少なし3億数千万円の消費が市内で行われるということでございますから、その換金額ほどの効果があるということになろうかと思えます。以上です。

委員外議員（中川 隆志） いやだから、換金額に対する効果がどういふ効果かということをはっきりと示さないと、予算計上する意味がないんじゃないかって言ってるわけですよ。

政策企画課長（三浦 賢太郎） 先ほど部長も申し上げましたが、やはり具体的な効果を数字にというのは、なかなか難しいところで、私どもとしては配布率とか、換金率というところで、一応の成果を考えたいと思っております。買物券の額面分は確実に市民の皆様の負担軽減が図られているという意味では、市民の皆様に物価高騰対策の効果があるものと思えますし、市民の皆様のニーズに応えられるという意味では、買物券事業というのが一番適しているのではないかなということで予算計上させていただいております。

委員長（坂ノ井 徳） ほかにございませんか。

【 「なし」と呼ぶ者あり 】

委員長（坂ノ井 徳） ないようでございますので、以上で質疑を終わります。

これより議案第83号について、委員会としての採決を行います。お諮りいたします。本案を原案のとおり可決することに御異議はございませんか。

【 「異議なし」「異議あり」と呼ぶ者あり 】

委員長（坂ノ井 徳） 御異議のある方がおられますので、これより挙手による採決を行います。議案第83号について、これを原案のとおり可決と決することに賛成の方は、挙手をお願いします。

【 挙手多数 】

委員長（坂ノ井 徳） 挙手多数と認めます。よって、議案第83号は可決と決しました。

以上で付託事項の審査を終わらせていただきます。皆様方には慎重なる御審議をいただきまして誠にありがとうございます。これをもって委員会を閉会といたします。

（ 閉会 午後0時11分 ）

委員長署名 _____ 坂ノ井 徳 _____